

事業報告書

(自 平成 29 年 7 月 1 日 至 平成 30 年 6 月 30 日)

定款第 3 条に基づき、補体研究・調査、講演会・ワークショップなどの開催、機関誌・図書の発行などを行った。

I. 学術集会、講演会等の開催

1. 第54回日本補体学会学術集会を福島県立医科大学関根英治氏を集会長として、平成29年9月1-2日コラッセふくしまにて開催。
2. 第55回日本補体学会学術集会を新小倉病院塚本浩氏を集会長として、平成30年8月31日-9月1日に北九州国際会議場にて開催決定。
3. 第56回日本補体学会学術集会を埼玉友草加病院大澤勲氏を集会長として、平成31年8月23日-24日にコングレスクエア日本橋にて開催決定。

II. 学会機関誌その他の刊行物の発行

1. 学会誌「補体」第54巻 第1号を平成29年9月1日に発行。
2. 学会誌「補体」第54巻 第2号を平成29年12月20日に発行。
3. 医療情報誌シュネラーのFOCUS「補体」シリーズへ日本補体学会から寄稿
第3回～第6回
4. 腎と透析 特集「補体と腎疾患」2017年83巻第4号を補体学会員が執筆者として投稿

III. 研究の奨励及び研究業績の表彰

1. 第54回日本補体学会学術集会において、第54回日本補体学会学術集会優秀賞を水野智博氏に、授与。

IV. 関連学術団体との連絡及び協力

1. 補体関連疾患の診断指針の作成と検査法の推進に向けて、関連学会と協力。
協議中・協議予定の学会
 - (1) 日本移植学会・日本臨床移植学会
 - (2) 日本腎臓学会
 - (3) 日本小児腎臓病学会
 - (4) 日本造血細胞移植学会
 - (5) 日本妊娠高血圧学会
 - (6) 日本免疫不全・自己炎症学会
2. イカチバントの在宅医療における自己注射保険適用の要望書を日本皮膚科学会、日本アレルギー学会と共同で、厚生労働省に提出。

V. 補体関連疾患の診断指針の作成と検査法向上の推進

1. 研究課題「新しい補体検査システムの構築による補体関連疾患の包括的登録と治療指針確立への展開」を推進。
2. 上記事業として、補体タンパク質検査、補体関連遺伝子検査を推進。補体タンパク質検査項目の新規整備を引き続き検討。
3. 「補体関連疾患に関する病態解明、それら疾患に対する新規診断方法および治療法の開発に関わる基礎研究、臨床研究」のテーマで、平成29年度委託研究を募集し、3名を採択。
4. アレクシオンファーマ合同会社と第三期事業を平成30年4月30日終了。新たな受委託契約を締結し、平成30年5月1日より第一期事業開始。
5. 補体検査全般の検査体制を充実させるため、CSLベーリング社と第二期事業を平成29年7月1日開始し、平成30年6月30日終了。第三期事業を平成30年7月1日より開始予定。
6. 上記事業として、「遺伝性血管浮腫」に関する補体タンパク質検査、補体関連遺伝子検査を推進。
7. 「補体関連疾患に関する病態解明、それら疾患に対する新規診断方法および治療法の開発に関わる基礎研究、臨床研究」のテーマで、平成30年度委託研究を募集し、3名を採択予定。
8. 補体検査全般の検査体制を充実させるために、シャイアージャパンとの受委託契約について交渉。
9. 補体検査プロジェクトとして、「同種造血幹細胞移植後血栓性微小血管症（TA-TMA）における補体介在性機序の探索」「妊産婦の妊娠期から産後における補体タンパク質の測定とその推移の考察」を承認・推進。
10. 新規の「補体検査プロジェクト」を、引き続き募集し、推進。

VI. 国際的な研究協力の推進

1. 平成29年9月8日～9月12日までコペンハーゲンで行われた 16th European Meeting on Complement in Human Disease (EMCHD2017) に参加し、日本補体学会の検査プロジェクト発表及び情報収集。
2. 国際補体学会の外部精度評価 (External Quality Assessment 2017) が妥当性評価を行っているEQAの標準化研究に参加し、平成30年1月16日付で妥当性評価書(Certificate)を受領。

VII. 会議

1. 理事会を平成29年7月から平成30年6月まで3回開催。

VIII. その他

特になし